

ふた復通信 ～ふたばの日常～ 令和2年10月 秋



リニューアル創刊号
令和2年10月発行
福島県ふたば復興事務所

- ・巻頭記事「東日本大震災・原子力災害伝承館」
- ・双葉郡トピックス（6月～9月）
「檜葉名物 茶まんじゅう復活」
「道の駅なみえオープン」 他
- ・お知らせ ・双葉郡の町村内居住率

ふた復通信のリニューアルについて

ふた復通信は、これまで福島県ふたば復興事務所の機関誌として不定期で発行してきましたが、来年で震災から10年という節目の年を迎えるに当たり、より多くの人に双葉郡における復興に向けた取り組みや身近な生活情報などをタイムリーにお届けするため、今回から内容を見直すとともに、季刊発行としました。

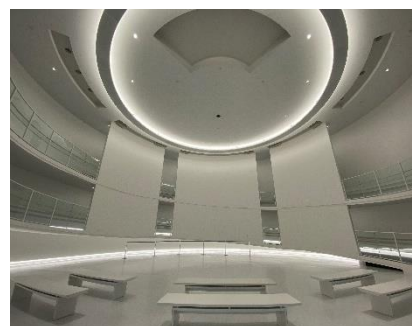
皆様に、当事務所のFacebookと合わせて楽しんでいただけるよう紙面の充実にも努めてまいります。

【巻頭記事】「東日本大震災・原子力災害伝承館」9月20日にオープン！

9月20日、福島第一原子力発電所から北へ約3.5km、双葉町の中野地区復興産業拠点内に「東日本大震災・原子力災害伝承館」がオープンしました。2011年3月11日に発生した東日本大震災及び原子力災害の記録と記憶を、防災・減災の教訓として未来へつないでゆくとともに、国内外からの支援に対する感謝の思いを発信することを目的とした施設です。新聞・テレビなどでも大きく取り上げられ、すでにご存じの方も多いかもかもしれませんが、その概要についてご紹介します。



（施設外観）



（プロローグシアター）

県内には、東京電力廃炉資料館（富岡町）やいわき震災伝承みらい館（いわき市）、相馬市伝承鎮魂祈念館（相馬市）など、震災関連のアーカイブ施設が存在しますが、この伝承館は、福島県が経験した未曾有の複合災害を取り扱う県の施設として整備されたものであり、オープン初日には県内外から千名を超える方が来館し、関心の高さがうかがえました。

館内はプロローグシアターと5つのゾーンに分けられ、「プロローグ」「1. 災害の始まり」「2. 原子力発電所事故直後の対応」「3. 県民の想い」「4. 長期化する原子力災害の影響」「5. 復興への挑戦」の順番で回ることにより、震災当時、何が起こり、県民が何を感じ、復興に向けてどのように歩んできたかを知ることができます。来館者を最初に迎え入れる「プロローグシアター」では、7面の巨大スクリーンに、震災前の地域の暮らしから複合災害を経て、復興に向かう歩みが映し出されます。続く展示ゾーンには、県が収集した約24万点の資料のうち約170点の震災関連の実物資料の他、映像資料等が展示され、当時の緊迫した様子をうかがい知ることができます。

その他にも、語り部による講話やフィールドワークなどの研修を通じて、未曾有の複合災害により何が起きたのか、様々なかたちで当時の状況が学べます。

今後、来館者のご意見なども取り入れつつ、展示内容を更に充実させていくとのことです。また、県内外から多くの教育旅行の受け入れが予定されており、「ホープツーリズム」における本県の情報発信拠点としての役割も期待されています。

震災から10年目を迎える今だからこそ、当時を振り返り、それぞれの思いを語り合い、共有することが、大切なのではないのでしょうか。

是非、多くの皆様に伝承館に足を運んでいただければと思います。



高村 昇 館長に話を伺いました。

Q 開館準備において心がけたことはなんですか？

A 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当初は2020年の夏に予定されていた開館が延期となりましたが、多少遅れたとしても、皆さんに安心して来館してもらえる伝承館となるよう心がけてきました。

Q 来館者に最も伝えたいことは何ですか？

A 10年前に双葉郡は地震・津波・原発事故という人類が経験したことのない複合災害に見舞われました。この10年間、福島県とりわけ双葉郡が経験した事故直後の避難、社会の混乱と風評被害、事故収束後の除染、住民の帰還、地域の復興の歩みをぜひ見ていただければ、と思います。

Q 今後どのような施設にしていきたいですか？

A この10年の福島復興の証を多くの方に見ていただきたいと思います。

同時に「知の交流拠点」として国内外の多くの方が、複合災害からの復興について学ぶことができる施設に、またそれにより、イノベーション・コースト構想の一翼を担うことができれば、と思います。

ありがとうございました。



東日本大震災・原子力災害伝承館 利用案内

○所在地／〒979-1401 福島県双葉郡双葉町大字中野字高田39

○開館時間／9:00～17:00（最終入館時間は16:30）

○休館日／火曜日（祝日の場合は開館。その場合翌平日が休館。）

年末年始（12/29～1/3）

○入館料／大人：600円 小中高：300円

大人団体（20名以上）：480円

小中高団体（20名以上）：240円

※教育活動は減免制度有。

○お問合せ先／電話：0240-23-4402 電子メール：archive@fipo.or.jp



車でお越しの際は国道6号交差点のこちらの看板を目印にしてください。（伝承館は「中野復興拠点」内です。）

伝承館にお越しの際は…

10月1日、伝承館の隣に双葉町産業交流センター「(通称) F-BICC (エフ・ビック)」がオープンしました。こちらは双葉町が、町の復興をけん引する「中野地区復興産業拠点」の中核として整備した施設です。

館内には、復興関連企業が入居する貸事務所や会議室のほか、一般の方も利用できるフードコート、レストランもあり、双葉郡のご当地グルメや懐かしの味が楽しめます。伝承館にお越しの際は、是非、お気軽にお立ち寄りください。



【榎葉名物「茶まんじゅう」復活「玉屋菓子店」（6月8日掲載 @榎葉町）

創業 85 年となる「玉屋菓子店」さんは、伝統の「手づくり」にこだわった銘菓「茶まんじゅう」を製造販売し、町民に親しまれてきたお店です。東日本大震災と原発事故に伴う休業を乗り越え、今年の 3 月に営業を再開しました。

再開にあたって改装した店舗内には、帰還した町民がまんじゅうやお茶を味わいながら談笑できる、十二畳ほどの交流スペースも設けています。残念ながら、筆者が 5 月に訪れた際には、新型



コロナウイルス感染症拡大防止のため、交流スペースは開放自粛中でしたが、感染症の影響が落ち着いたら、お客さんの憩いの場として大いに賑わいそうです。

実際に食べてみると、適度な甘さのあんをしっとりとした薄い皮で包んでおり、風味もよくおいしくいただきました。店主が毎日一つ一つ丁寧に作られているとのことなので、ぜひ一度食べてみてはいかがでしょうか。（Y）



【大空を見上げよう「室屋さんフライト」（6月9日掲載 @広野町、浪江町）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出が自粛されていた 6 月上旬、福島県在住のエアロバティック・パイロットの室屋義秀さんが、県民を元気づけようと、県内各地で「Fly for ALL #大空を見上げよう」フライトを行っていただきました！

双葉郡では広野町と浪江町で実施され、青空に飛行機のスモークで描いた「にこちゃんマーク」が出現！描き始めてからマークが消えるまで 5 分弱のあっという間の出来事でしたが、見ていたみんなが笑顔になる素敵なイベントでした。室屋さん、ありがとうございました！（M）



【道の駅ならは物産館 リニューアルオープン！（6月19日掲載 @榎葉町）

「道の駅ならは」は、昨年の 4 月に温泉施設やレストランが再開し、この日ついに物産館も併せて再開となったことから、これを記念するセレモニーが行われました。

テープカット後、お店がオープンすると、再開を待ちわびた多くのお客様が来場し、あいにくの雨でしたが、それを感じさせない盛況ぶりでした！



農産物・特産品の販売所には、地元産のお米、野菜、花などの農産物、日本酒「榎葉の風」や木戸川で獲れた鮭を使ったフレークといった特産品が数多く並んでおり、お客様が次々と買い求めていました。（N）



【J-VILLAGE REFRESH PARK に行ってきました！(6月30日掲載 @Jヴィレッジ)】

Jヴィレッジでは、国内最高レベルの天然芝ピッチを期間限定で無料開放しています。取材時はあいにくの雨模様だったため、屋根付きの雨天練習場での開催でしたが、パーク内には子供たちが思い思いにチャレンジできるよう「トランポリン」、「ストラックアウト」、「ボルダリング」などの遊具が準備されており、雨や三密の心配もなく、手ぶらでのんびり楽しめ、子供連れには大きな魅力でした！



遊びに夢中になり、転んでしまう小さなお子さんもいましたが、芝生の上なのでパパ・ママも安心して子供たちを見守っていました。

たくさん遊んだ後は館内のレストラン「アルパインローズ」で昼食をとりました。新型コロナウイルス対策に配慮した広々とした空間で、名物の「マミーすいとん」などのおいしいランチを味わえるのでおすすめです。(無料開放は10月31日(土)までとなっております。)(S)

【学び舎の思い出は永遠に～浪江町立学校施設内見学～(7月27日掲載 @浪江町)】

浪江町では、7月の連休中に、解体が決定した町内に残る休校中の5つの小・中学校校舎の施設内見学が行われました。筆者がお邪魔した浪江小学校には、各年代のOB・OG達が家族連れで訪れ、校舎との名残を惜しんでいました。

昇降口には生徒の靴や傘が置かれ、教室の机や椅子もそのまま、今も授業が行われている学校のようなのに、壁に貼られた掲示物は平成

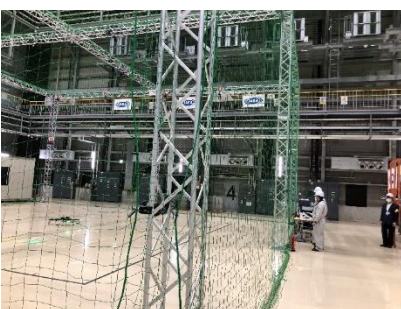


23年3月の日付であることが、震災と原発事故により突然日常が断ち切られた事実を改めて感じさせる光景でした。

学び舎は無くなってしまっても、学校の楽しい思い出は、いつまでもOB・OG、教職員の皆さまの中に残っていくことでしょう。(校舎の解体時期については、現在のところ未定です。)(M)



【潜入！櫛葉遠隔技術開発センター！(8月5日掲載 @櫛葉町)】



今回視察した櫛葉遠隔技術開発センターは、東日本大震災後、廃炉等に欠かせないロボット機器の遠隔操作技術に関する日本初の実証試験施設であり、2016年4月から本格運用を開始しています。主に「研究管理棟」と「試験棟」の2つで構成され、「研究管理棟」では、「没入型バーチャルリアリティ(VR)システム」を体験しました。事故後の福島第一原発1号機～3号機の原子炉建屋内一部を4面(正面・左右・下部)のスクリーンで再現しており、まるで現場にいるかのような臨場感で、建屋内をバーチャル視

察することができました。「試験棟」では、ドローンやロボットの動作を立体的に測量することのできる「モーションキャプチャ」を見学しました。

福島イノベーション・コースト構想や廃炉に向けた取組など、被災地の復興を実感できる施設であり、一般の見学も受け付けていますので、興味のある方は見学に行ってみてはいかがでしょうか。(S)

【道の駅なみえオープン！（8月6日掲載 @浪江町）】

8月1日（土）にオープンした「道の駅なみえ」。

館内の産地直売所には、地元産の野菜や花といった農産物から伝統工芸品まで数多く並んでいます。

同じエリアにあるパン屋さんでは、ご当地グルメのなみえ焼そばを挟んだパンや、15種類の中から好みの具材をその場で挟んでもらえる、なつかしのコッペパンなど、ここならではのパンが購入できます。店内のソフトクリームコーナーには、なんと「なみえ焼そばソフトクリーム」（！？）もあります。

そして、フードテラスのコーナーでは、地元諸戸漁港で水揚げされた海産物を使った料理や、なみえ焼そばといった浪江町のグルメを堪能できます。（N）



【ひまわり満開です（8月18日掲載 @広野町、大熊町）】

残暑厳しい8月、双葉郡内で元気に咲いている「ひまわり」を見に行きました。



←広野町では、広野防災緑地（下浅見川地区）のすぐ近くに「ひまわり迷路」が出現！家族連れや友達同士のグループが次々に訪れ、子どもも大人も喜々として迷路にチャレンジしていました。



また、大熊町では、避難指示が解除となる前の2018年から毎年育てられているひまわり畑が、町内大川原地区の県道35号線（通称：山麓線）沿いの農地一面に広がり、人の背丈を超える高さのひまわりに圧倒されました！→

青空の下のひまわりから、コロナを吹き飛ばして復興に進む元気を分けてもらいました！（M）

【「アマビエ」を見て元気を出そう！（9月16日掲載 @檜葉町）】

今年の夏は、新型コロナウイルスによる自粛生活で気持ちが晴れない日々が続いていたことから、少しでも元気を出したいという思いで、檜葉町山田浜の田んぼアートを見に行きました。

こちらは「福島田んぼアートプロジェクト」の一環で制作されたものであり、檜葉町では今年で3回目となりますが、今回は、疫病退散に御利益があるとされる妖怪「アマビエ」！色鮮やかな複数の特殊米を使って全長約70mの「アマビエ」が描かれています。

手を合わせて祈るユーモラスな姿とともに、新型コロナによる肺炎で亡くなられた志村けんさんのギャグ「だいじょうぶだあ」の文字と相まって、とてもホッコリした気持ちになれました。（U）



お知らせ

【イベント情報】（詳細は各イベントのホームページをご確認ください。）

○「あなたとつながる、ふたば。」双葉郡フォトコンテスト作品募集中！

（主催：一般財団法人 福島県電源地域振興財団）

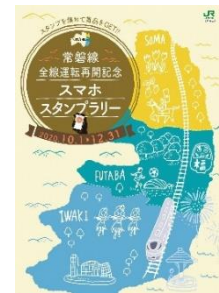
東日本大震災の前と後、「ふたばタイムカプセル部門」と「リアルタイムふたば部門」の2部門でフォトコンテスト作品募集中です。120本の豪華景品あり。応募期間は12/13（日）まで。奮ってご応募ください！



○ 常磐線全線運転再開記念 スマホスタンプラリー実施中！

（主催：一般財団法人福島県電源地域振興財団）

今年3月14日、待ちに待った常磐線全線の運転が再開しました。これを記念して、福島県内の常磐線全駅（28駅）でスマホスタンプラリーを実施中です。各駅に設置されたスタンプラリー専用パネルのQRコードをスマホで読み取りスタンプを取得。スタンプを集めて応募すると抽選で浜通りの特産品など賞品がもらえます。期間は12月31日（木）まで。是非ご参加ください！



○ なら SUN フェス2020開催（主催：楡葉町）

開催日時：11月7日（土） 午前10時から午後3時まで

開催場所：みんなの交流館 ならは CANvas

楡葉町の産業をPRし、農業の収穫を祝うイベントが今年も開催されます！

（ご来場の際は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご協力願います。）

【福島イノベーション・コースト構想 関連情報】

○ スマート農業・先端技術体感フェア in とみおか 参加申し込み受付中！

（主催：公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構、福島県）

ロボット、IoT、ビッグデータ、AIを活用した「スマート農業」を全国に先駆けて実践していくため、県内外のスマート農業に関するセミナーや先端技術を体感できるフェアを開催します。福島イノベーション・コースト構想推進機構のホームページで参加申し込み受付中です！

開催日時：11月16日（月） 午前11時から午後4時まで

開催場所：富岡町文化交流センター 学びの森



＜双葉郡の町村内居住率＞

双葉郡8町村がホームページや広報誌で公表している住民基本台帳人口、町村内居住者数に基づき算出しました。（新規転入者を含み、滞り者推計を除く。）復興状況を知る一つの目安としてご覧ください。（「町村内居住率＝町村内居住者数／住民基本台帳人口」）

	住基人口	居住者数	居住率
広野町	4,757	4,249	89.3%
楡葉町	6,785	4,026	59.3%
富岡町	12,486	1,498	12.0%
川内村	2,546	2,053	80.6%
大熊町	10,282	257	2.5%
双葉町	5,827	0	0.0%
浪江町	16,843	1,467	8.7%
葛尾村	1,382	421	30.5%
計	60,908	13,971	22.9%

双葉郡全体の町村内居住率

（令和2年8月末時点）

22.9%

＜編集後記＞

当事務所では、これからも、随時、Facebookを更新するとともに、「ふた復通信」を通じて、季節ごとにJヴィレッジ、福島イノベーション・コースト構想の取組なども含め、地元の旬な話題を届けてまいります。

なお、本来なら9月にJヴィレッジで「ふたばワールド2020」が開催される予定でした…。

その他にもコロナ禍で管内の多くのイベントが中止となり、非常に残念な夏となりましたが、来年には収束していることを信じて、できることから取り組んでまいります。

☆ 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

☆ 是非、双葉郡内のイベント情報や、グルメ、観光、素敵な景観などおもしろ情報をお寄せください。

〒979-1111 福島県双葉郡富岡町小浜553-2 福島県富岡合同庁舎

福島県ふたば復興事務所

TEL：0240-23-6974 FAX：0240-25-8372

～ ホームページ、Facebookもやってます！ → 「ふたば復興事務所」で検索！！